

『マナ』はどこかへ出かける用意をしている。『マナ』『マナ』『マナ』どこかへ出かけるの。『のら』『のら』が尋ねると、『ちゅっと町へ行ってくる』と『マナ』『マナ』は言い返した。『町』『のら』『のら』は「と尋ねると、『お留守番』と冷たく答えた。』のら』は「えー」と言っていて、『マナ』『マナ』の服をつかみ、『のら』も行く、行く」と言っていて、『マナ』『マナ』の体を揺すった。『マナ』『まじっ』と『のら』を見つめ、『マナ』を連れて行ったら、足手まといになるなと思った。『マナ』『まじっ』のら』『まじっ』は「怖いところまで動く機械がいつぱいいて、またまたしていると食べられちゃうぞ」と脅かした。』のら』は町には行ったことがないのか、首をすくめ少しびびっていた。『マナ』『マナ』はしめしめと思い、また出かける準備を始めた。

『マナ』がせつせと自分のバックに荷物を詰めていると、何故か『のら』が風呂敷を広げ何かを包み始めた。よく見ると汚いスカートと魚の干物である。『マナ』『マナ』は怪訝そうに、「何してるの」と尋ねると、『旅の準備』と言いつ返した。『旅』『マナ』『マナ』が言つと、『のら』は「旅、旅、町まで旅するの」と答えた。どうやら町が怖いところと言ったので、大変な旅だと思い込んでしまったようである。町に行くのを諦めたわけではなかったようである。『マナ』が玄関から出てきた。そして、「いい天気だ。』のら』行くぞ」と言っていて大きく伸びをした。』のら』は片手に風呂敷を持ち、ニコニコしながら出てきた。その格好は初めてこの家に来た時と同じであった。前と違うのは『のら』の字が増えたくらいである。しかしとても無事に済むとも思えず、先が思いやられるなと『マナ』は思った。

